



こどものがん

がんとどう向き合うか

この冊子は、**宝くじ**[※]の普及宣伝事業として助成を受け作成されたものです。



C O N T E N T S

- 0 はじめに… 3
- 1 こどものがん… 4
- 2 こどものがんの原因と予防… 7
- 3 こどものがんの症状と早期発見… 9
- 4 こどものがんの診断… 13
- 5 こどものがんの治療／よりよい治療を受けるためには… 15
- 6 主なこどものがん… 19

はじめに

「がん」は日本人の死亡原因の第1位であり、成人、特に高齢者にとって生命を脅かす最大の病気です。

「こどものがん」は国内で発生するすべての「がん」のうち1%に過ぎませんが、5歳以上のこどもの病死原因の第1位であり、こどもにとっても生命を脅かす最大の病気です。年間に約2,500人のこども達が「がん」と診断され、多くの幼い命が「がん」のために失われています。

「こどものがん」に対する治療は著しい進歩を遂げています。現在、「がん」と診断されたこども達の約70%に長期生存が期待されます。「こどものがん」を克服して成人された方は、成人400～1,000人に1人に及ぶといわれています。「こどものがん」は克服できる可能性が高い病気です。

「こどものがん」は必ずしもわかりやすい症状を伴う病気ではありません。すっきりしない症状が続く場合には、是非、かかりつけ小児科医にご相談下さい。「こどものがん」が疑われる場合には、専門医療施設に紹介いただくことをご検討下さい。

この冊子は、「こどものがん」がどのような病気であるかを概説し、こどもが「がん」と疑われた場合の対応をご紹介することを目的として作成されました。

「こどものがん」が社会に広く理解され、長期にわたる治療期間もその子なりの成長発達出来るよう皆で支援したいものです。

1

こどものがん

がんはどのような病気ですか

私たちの体は、心臓、肺、脳、肝臓などのさまざまな臓器により構成されます。それぞれの臓器はその役割を果たすために必要な細胞により構成されています。細胞は必要に応じて性質を変化したり（分化）、分裂して数を増やしたり（増殖）して、健康を維持しています。がんとは、臓器を構成する細胞に異常が発生し、その結果として、体が必要としていないのに細胞が分裂を続け（自立性増殖）、発生した臓器や周囲の臓器に障害を与え、また、血液の流れによって離れた臓器にも新しい病巣を形成し（浸潤と転移）、体の維持に必要な栄養を奪い衰弱させる（悪液質）病気です。

がんの名前

がんの名前は、最初に異常を生じた細胞により構成される臓器に由来することが一般的です。例えば、肝臓を構成する細胞に異常を生じ、がんを発症した場合には「肝がん」と呼ばれます。「肝がんの細胞」が血液の流れによって肺にも病巣を形成（転移）した場合には「肝がんの肺転移」と呼ばれます。肺を構成する細胞からがんを発症した場合には「肺がん」と呼ばれます。いずれも肺にがんが存在する状態ですが異なる病気です。



こどもの病気とがん

日本では年間に2,000～2,500人のこどもが新たにがんと診断されています。年間の発生は、こどもの人口約10,000人に対し1人の頻度であり、稀な病気です。表1はこどもの死亡原因を年齢別に示しています。新生児、乳児に最も頻度の高い病死原因は先天異常であり、それ以降ではがんであることが示されています。多くの若い命ががんにより失われています。一方で、こどものがんの診断・治療の進歩は著しく、過去30年間で長期生存率は約30%から70%まで向上しました。こどものがんは稀な病気ですが、適切な治療により克服の可能性が高い病気であると言えます。

	死因				
	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位
0才	先天異常	呼吸障害等	乳幼児突然死症候群	出血性障害等	不慮の事故
1～4才	不慮の事故	先天異常	小児がん	心疾患	肺炎
5～9才	不慮の事故	小児がん	先天異常	肺炎	心疾患
10～14才	小児がん	不慮の事故	自殺	心疾患	先天異常
15～19才	不慮の事故	自殺	小児がん	心疾患	脳血管疾患
全人口	がん	心疾患	脳血管疾患	肺炎	不慮の事故

表1 年齢別こどもの死亡原因

厚生労働省「人口動態統計」平成18年（'06）

こどものがんの種類と頻度

表2はこどものがんの種類を示しています。最も頻度が高い白血病は、血液中の細胞である白血球などから生じるがんで30-40%の頻度です。脳から生じる脳腫瘍（約19%）、リンパ節などから生じるリンパ腫（約10%）、副腎あるいは神経節などから生じる神経芽腫（約8%）が続きます。白血病、脳腫瘍、リンパ腫などの病名はおおまかな分類であり、それぞれ、さまざまな種類・性質の病気の集合です。表3は成人のがんの種類を示しています。成人に多い肺がん、胃がん、大腸がん、乳がんなどはこどもにはほとんどみられません。

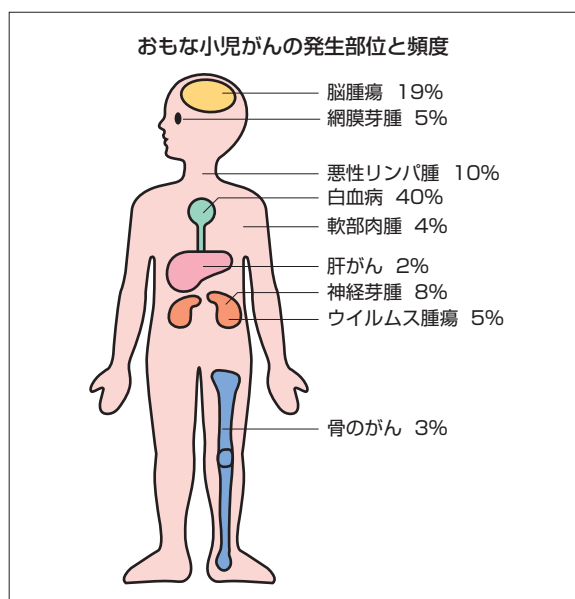


表2 こどものがんの種類と頻度

小児がん / がん研究振興財団ホームページより

http://www.fpcr.or.jp/publication/knowledge/06_08.html

	第1位	第2位	第3位	第4位	第5位	備考
男性	胃	肺	結腸	前立腺	肝臓	結腸と直腸を合わせた大腸は2位
女性	乳房	胃	結腸	子宮	肺	結腸と直腸を合わせた大腸は1位
男女計	胃	肺	結腸	乳房	肝臓	結腸と直腸を合わせた大腸は2位

*2002年に新たに診断されたがん¹⁾は58万9,293例（男性33万9,650例、女性24万9,643例）

*2002年の罹患数が多い部位

表3 成人のがんの種類と頻度

がん情報サービス / がんの統計 2008年 / 部位別がん罹患数より

http://ganjoho.ncc.go.jp/public/statistics/backnumber/2008_jp.html

2

こどものがんの原因と予防

どうしてがんになるのでしょうか

細胞は必要に応じて性質を変化させたり（分化）、分裂して数を増やしたり（増殖）し続けています。この過程で、細胞に異常が生じ、それが蓄積されることにより、細胞は無秩序に旺盛に増殖する能力、および健康なからだの制御から逃れる能力を身につけることがあります。この結果が「がん」の発症と考えられています。年齢を重ねるとともに、細胞に異常を生じ蓄積する機会は増加すると考えられます。放射線への被爆や、がんの発症に関連する生活習慣は細胞に異常を生じる機会を増加すると考えられます。がんの発症に、高齢、一部の生活習慣が関連する理由はこのように考えられています。

こどもなのにどうしてがんになるのでしょうか

こどもがどうしてがんになるのか…。わかっていないことが大部分です。加齢や生活習慣はあまり関係がないと考えられています。むしろ、何らかの体質が関係しているのではないかと考えられています。体質は遺伝的素因ともいえます。祖先から引き継がれた素因に、さまざまな偶然の変化が積み重なってできたものが体質といえます。例えば、ひとの体の設計図といえる染色体が不安定（壊れやすい）な体質が知られています。細胞は染色体の情報に基づき、必要に応じて性質を変化させたり（分化）、分裂して数を増やしたり（増殖）しています。染色体が不安定なことにより、細胞にがんの発症につながる異常を生じる可能性が高くなると考えられています。体を外敵などの異常から守る免疫の働きが不十分な体質（免疫不全症）でも、がん発症の危険性が高いことが知られています。また、生まれる前の胎児に、既にごんが生じることがあることも知られています。



こどものがんは予防できるのでしょうか

こどものがんの原因は明らかでないことが大部分です。原因が明らかでないことから、予防は困難であるといえます。細胞は異常を生じる可能性を持っているのですから、誰でも、こどもでも、がんを発症する可能性があると考えられます。少なくとも明らかな根拠もなく、「こどもが悪い子だったから」、「両親が適切に育てなかったから」、「家系に問題があるから」などと考えることは、こどもが病気を克服するために何らの効果もありません。がんの発症に強く関連する遺伝的素因がある場合には、定期的な検診で評価をすることが適当な場合もあります。遺伝的素因が存在したとしても、同じ素因を持つすべての人たちががんを発症するとは限りません。



3

こどものがんの症状と早期発見

こどものがんの症状

こどものがんの症状の多くは特異的でなく、つまり、ある症状がみられる場合にほぼ間違いなくがんであるという症状は少なく、むしろ、より一般的な症状で発症することがしばしばです。患者であるこども自身、あるいは両親も気づかない症状を、偶然に受診した医療機関で指摘され、検査の結果、がんと診断されることも少なくありません。がんと診断されたこどもの経過をさかのぼって考え直すと、多くの場合には、2か月以前からがんに関連する何らかの症状があったことに気づかされます。このような症状は、その時点では、他の一般的な病気の症状との区別は困難なことがしばしばです。例えば、数日前からの発熱と足の軽い痛みという症状は、かぜなどのウィルス感染、けがなどの原因も考えられますが、白血病でも同じ症状を生じることがあります。



こどものがんは早期発見すればより治りやすくなりますか

進行したがん（転移を伴うがん、血液中の白血病細胞数が多い白血病など）の生存率は、進行していないがんの生存率よりも低いことがしばしばです。がんを疑う症状がみられる場合には、早期に医療機関に受診し評価を進めることが必要です。一方で、早期の診断によりこどものがんが治りやすくなるという明確な根拠は示されていません。多くの小児がんは急激に進行することにより症状を生じることから、早期発見が現実的であるかも明らかではありません。治りにくいがんは、診断の時期などの問題よりも、がん細胞自体の性質に起因するものであり、このようながん細胞は早期に転移を生じるなどの性質を備えているという考え方もあります。

こどものがんの症状は年齢によって異なりますか

多くのこどものがんは特定の年齢の幅に患者が集中する傾向があります。がんの種類により症状も異なりますので年齢による症状の違いも生じます。また、乳児、幼児では自分の症状を訴える表現方法が限られていること、年長児では必ずしもすべての症状を両親に相談しないことなども症状の違いに関係すると考えられます。こどものがんの症状は特別なものでないことがしばしばですので、重篤な症状、長く続く症状、進行する症状を認める場合には医療機関に相談することが重要です。以下にこどものがんの具体的な症状を解説します。

こどものがんの具体的な症状

1) 発熱

こどものがんの診断時に発熱を伴うことはしばしばです。発熱は必ずしも39-40℃などの高い体温とは限らず、発熱・解熱を繰り返すこともあります。がんの診断につながる他の症状も伴うことが通常です。一般的な評価では原因がはっきりせずに発熱が続くことを不明熱と呼ぶことがあります。こどもの不明熱の原因のうち、がんは10%に満たないとされます。

2) 頭痛

嘔吐を伴う頭痛は脳腫瘍の症状としてよく知られています。しかしながら、他の原因でもしばしば経験される症状です。頭痛を伴う脳腫瘍では、何らかの脳神経などの異常に関連する症状（あるいは診察所見）を伴うことがしばしばです。

3) リンパ節の腫れ

首のまわり、耳の後ろ、顎の下、足の付け根のリンパ節が腫れることがあります。リンパ節が腫れていても、その原因ががんであることはごく一部です。リンパ節の腫れの原因ががんであることの証明は、手術により腫れているリンパ節の一部またはすべてを摘出し、がん細胞の存在を明らかに示すこと（病理組織診断）のみにより可能です（このような診断のための手術を生検と呼んでいます）。

4) 胸の腫瘍

白血病、リンパ腫、神経芽腫などでは、胸の中、特に左右の肺の間である縦隔（じゅうかく）と呼ばれる部分に腫瘍（こぶ）を生じることがあります。縦隔の腫瘍は、気管（口から肺につながる空気の通り道）、心臓、脊髄を圧迫することがあります。あるいは胸水（肺、心臓の周囲に水が貯まる状態）を伴うことがあります。このため、息苦しさ、咳、顔のむくみ、動悸、下半身の麻痺などの強い症状を生じることがあります。

5) 骨や関節の痛み

痛みはこどものがんの症状として頻度の高い訴えです。睡眠を妨げるほどの強い痛みの訴えも少なくありません。骨の痛みは、白血病でしばしば経験される症状です。骨肉腫など骨から生じるがん、神経芽腫などの転移でも骨の痛みを生じます。

6) おなかの腫瘍

おなかの腫瘍を伴うこどものがんは1-5歳に高頻度です。症状はがんの種類や進行によりさまざまです。明らかな症状はなく、偶然におなかの腫瘍を指摘されることも少なくありません。一方で、急速に増大する腫瘍により、腸や尿路（腎臓から始まる尿の通り道）の圧迫、腹水（腸のまわりに水が貯まる状態）の貯留などを生じて重篤な症状を伴うこともあります。

7) 血液細胞の異常

白血病では健康な血液細胞が著しく障害されることがあります。健康な白血球が減少することにより、重篤な感染症、特殊な感染症を生じることがあります。貧血により、顔色が悪い、元気がない、疲れやすいなどの症状を生じます。血小板の減少により、皮膚や粘膜の出血斑、鼻血が止まらないなどの症状を生じることがあります。

8) その他の症状

筋肉から生じる横紋筋肉腫では四肢（手足）、鼻・のどなどの顔面、生殖器（男児の睾丸、女児の膣など）に腫瘍を生じることがあります。眼の奥の網膜から生じる網膜芽腫では、光が当たると瞳孔（眼の黒い部分の中央の光がとおる場所）が白く見える白色瞳孔という特徴的な症状を生じます。



4

こどものがんの診断

こどものがんの診断

緊急の事態を除いて、がんの治療は正確な診断の後に開始されなければなりません。がんの診断には、どのようながんであるかの診断（病理診断）と、がんが体のどこにどれだけあるかの評価（病期診断）が必要です。診断に必要な検査、方法は、がんの種類などにより異なります。画像検査（CT スキャン、MRI など）、腫瘍マーカー検査（がん細胞の量や増殖を示す血液あるいは尿検査など）は診断を補助する検査として有用ですが、手術により病変の一部またはすべてを摘出し（生検）、がん細胞の存在を明らかに示すこと（病理組織診断）が、最も正確ながんの診断です。診断確定のために、検査を繰り返さなければならないこと、結果を得るまでに日数（数日から数週間）を要することもあります。

こどものがんの診断はどこで行われますか

がんの可能性が疑われた場合には、こどものがんの診断、治療の経験の豊富な医療施設に相談することをお勧めします。がんにはさまざまな種類があります。より速く、効率的に、どのようながんであるか正確に診断するためには、適切な診断の予測、計画的な検査が不可欠です。こどものがんは頻度の高い病気ではありませんので、すべての医療施設がこどものがんの診断の経験をしているとは限りません。こどものがんの治療を行う医療施設では、診断のための検査と併行して、治療の準備を進めることが一般的です。





こどものがんは治るのですか

がんの種類によりさまざまに異なりますが、こどものがん全体の約70%が治ると考えられています。ただし、がんが治ったと判定することは容易ではありません。治療により、一度消失していたがんが再び現れることを再発と呼んでいます。がんが再発するかどうか、時間が経過しない限り、正確に知ることはできません。通常の検査で、がんの病変が見つけれない状態を寛解（かんかい）と呼んでいます。がんの治療においては、治癒という言葉を用いず、寛解が長く続くことを治癒と同じ意味と考えることが一般的です。

こどものがんの治療はどこで行われますか

こどものがんの治療の経験が豊富な医療施設が望ましいことはいうまでもありませんが、通院は可能か、快適に過ごせるか、医療者と信頼関係を築けるかなども重要な要素です。

治療の中心的役割を担う医師は、がん治療を担当する小児科医であることが一般的です。がんの種類によっては手術が必要な場合があります。こどものがんの手術には、一般（小児）外科だけでなく、脳神経外科、耳鼻咽喉科、眼科、整形外科などさまざまな専門医の協力が必要なことがあります。また、放射線治療が必要ながんも少なくありません。合併症の治療のために、内分泌、循環器などの専門医の協力が必要なこともあります。治療に必要な専門医療の協力体制は重要な要素です。

こどものがんでは、長期間の治療を要することがしばしばですので、保育士、臨床心理士、チャイルドライフスペシャリスト（こどもの病気、検査、治療などに対する理解を求め、恐怖などを軽減するための専門家）、宿泊施設、院内学校（養護学校などが併設されている施設もあります）などの支援体制も大切な要素になるかもしれません。



けるためには

セカンドオピニオン

診断や治療について、担当医以外の医師の意見をセカンドオピニオンと呼びます。こどものがんは致命的な病気であること、進歩の著しい医学領域であること、治療に伴うリスクが大きいことなどから、複数の医療施設、あるいは医療者の意見を求めることはよりよい治療を求める手助けになり得ます。意味のあるセカンドオピニオンを求めるためには、担当医による医療情報の提示が不可欠です。現在の医療施設の提案や対応に特に不満を感じていなくても、セカンドオピニオンを得ることにより、診断や治療についての理解が深まることもしばしばあります。セカンドオピニオンを求めることを、現在の医療施設や医療者に遠慮する必要はありません。

標準治療と臨床試験

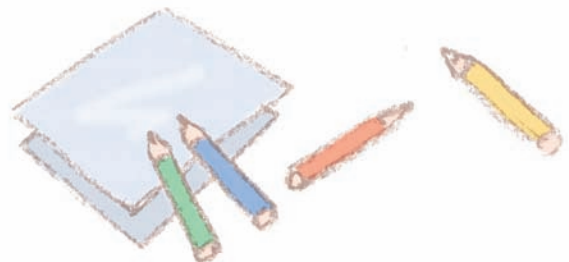
現在行われているこどものがんに対する治療には、生存率はもとより、副作用の軽減、治療期間の短縮など、さまざまな改善が期待されています。改善を目指した新たな治療の試みが**臨床試験**です。新たな治療の試みは科学的に改善が期待されると考えられ、その治療を受けることが倫理（人として守り行うべき道）的に妥当であると判定された場合のみに行われることが許容されます。新たな治療の試みは臨床試験として計画され、医療者、科学者、法律や人権に関する専門家などから構成される倫理審査委員会などで審査されます。臨床試験は、倫理審査委員会で承認され、参加することが適切と考えられる場合に、治療の選択肢として提示されます。現在、一般に行われている治療で、それぞれのがんの種類、進行に応じて、最も良好な治療成果が確認されている治療を**標準治療**と呼びます。ほとんどの標準治療は以前に行われた臨床試験治療です。臨床試験として収集された治療の効果、安全性に関する情報が成果を示す根拠とされます。がんに対する治療を選択する場合には、標準治療と、参加可能な試験が存在する場合に臨床試験による治療のいずれかを検討することが通常です。

よりよい治療を受けるためにはどうしたらいいですか

こどもががんと診断され、治療を行う医療施設が決まったら、担当医から診断、治療についての詳しい説明とともに、具体的な治療の選択肢が提示されるでしょう。担当医を含む医療者は、医学的な基礎知識を持たない患者やその家族に理解されるようわかりやすく説明することを心がけていますが、説明のすべてを一度に理解することは容易ではありません。がんという診断に動揺し、気持ちの整理もできていない時期に、このような説明が行われることがしばしばです。医療者の説明により、理解できたこと、理解が難しかったことを整理し、納得できるまで、繰り返し説明を求める、質問を重ねることが重要です。がんという病気の性質上、どのような治療を受けたとしても、致命的な結果に至る可能性は避けられません。病気を理解し、治療の選択に参加し、治療の過程を理解することは、よりよい治療につながる大切な要素です（表4を参考にして下さい）。

こどもに説明するべきでしょうか

こどもががんと診断された場合に、「こどもに説明するべきか」「誰がどのように説明すればいいのか」という問題が生じます。こども達自身は、自分のからだの具合が悪いことを自覚し、さまざまな検査や治療を受け、心配する両親の表情を目の当たりにしながら過ごしています。適切な説明が行われない場合、こども達はさまざまな想像をし、ストレスを抱え、明らかにされない病気に対し、強い不安や恐怖を抱きます。また、自分が病気になった原因を、何かいけないことをした罰であると、自分を責めることもあるかもしれません。**こども達に対し、誠実に説明することが大切です。**こども達は、誠実に説明され、年齢相応の理解をすると、治療に協力できる可能性が高くなります。



1	<p>診断</p> <p>がんの種類（病気の名前） <input type="checkbox"/></p> <p>からだのどこにがんが存在するか（病期、あるいはステージと呼ぶこともあります） <input type="checkbox"/></p>
2	<p>治療の選択肢</p> <p>治療にはどのような選択肢があるのか <input type="checkbox"/></p> <p>どのような理由でどの治療を勧めるのか <input type="checkbox"/></p> <p>選択肢に臨床試験が含まれる場合にその選択は適当か <input type="checkbox"/></p>
3	<p>医療者（医療施設）の治療経験と対応可能な医療</p> <p>同じ病気に対する治療の経験はあるのか <input type="checkbox"/></p> <p>手術、放射線治療などが必要な場合に対応が可能な <input type="checkbox"/></p>
4	<p>治療</p> <p>期待される効果 <input type="checkbox"/></p> <p>治療期間とスケジュール（入院／外来治療） <input type="checkbox"/></p> <p>治療によってどのような副作用を生じる可能性があるか <input type="checkbox"/></p> <p>治療が終わってから生じ得る副作用はどのようなものか <input type="checkbox"/></p> <p>副作用にどのように対応するのか <input type="checkbox"/></p>
5	<p>生活、その他</p> <p>医療費の詳細について相談する窓口は <input type="checkbox"/></p> <p>学校に行けなくなる期間とその間の対応は <input type="checkbox"/></p> <p>入院治療中の家族の面会や宿泊への対応は <input type="checkbox"/></p> <p>チャイルドライフスペシャリスト、臨床心理士、保育士などによる支援は得られるか <input type="checkbox"/></p>

表 4 よりよい治療を受けるために理解しておきたいことから

6

主なこどものがん

「こどものがんの種類」に記したように、こどものがんにはさまざまな種類があります。それぞれの病気にはそれぞれに特徴があり、治療の方法、治りやすさもさまざまに異なります。

白血病

白血病は血液細胞から生じるがんであり、こどものがんの中で最も多い病気です。がん細胞の性質により急性リンパ性白血病などに分類されます。発熱、顔色が悪い、骨の痛み、出血斑などの症状がみられます。こどもの白血病全体の70-80%に治療が期待されます。

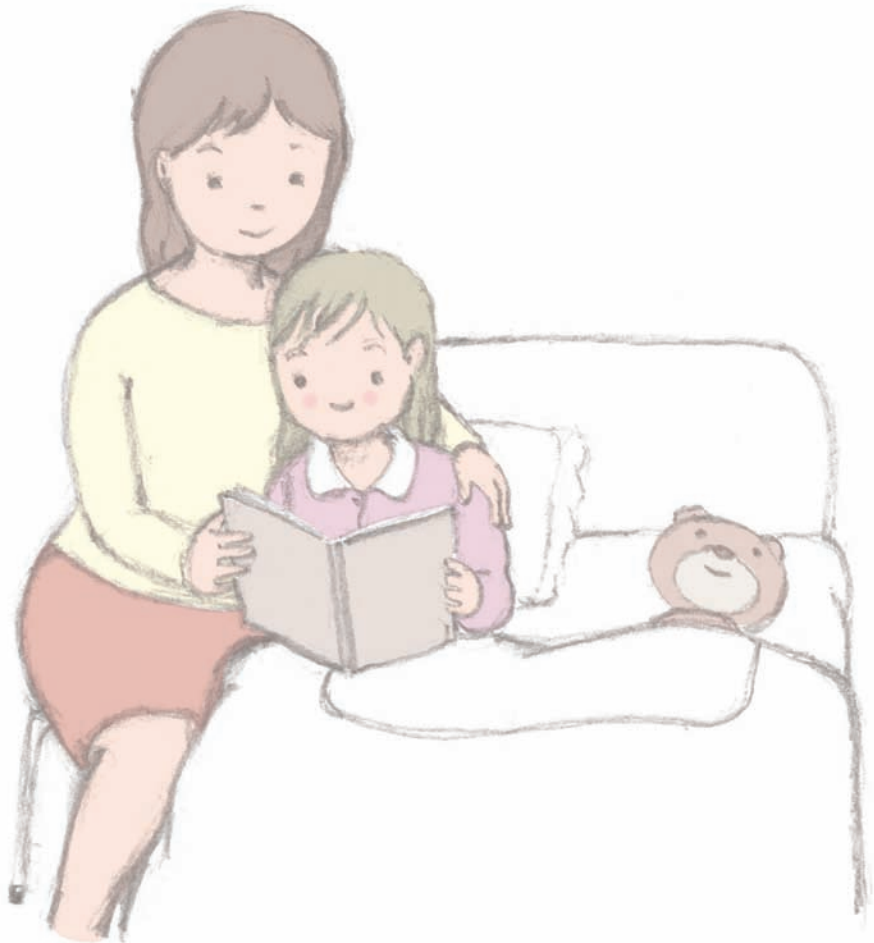
脳腫瘍

脳に生じるさまざまな腫瘍をまとめて脳腫瘍と呼んでいます。こどものがんの中では白血病に次いで多い病気です。どのような性質の腫瘍が、脳のどの部分にできるかにより、症状、治療、治療の可能性は異なります。頭痛、嘔吐は最も多い症状で、麻痺、けいれん、尿崩症（大量に水を飲み大量の排尿をする状態）を伴うこともあります。腫瘍そのものに対する治療だけでなく、けいれんに対する治療、ホルモンの補充療法などが必要なこともあります。

神経芽腫

神経芽腫は副腎（腎臓の上にある小さな臓器）、あるいは神経節（背骨の周りにある神経の節目）から生じるがんであり、こどものがんの8%の頻度です。おなかの腫瘍（こぶ）として発見されることが多いものの、早期に転移を生じて、発熱、骨の痛み、頭の腫瘍（骨や皮膚などへの転移）などの症状を伴うことも少なくありません。転移を伴う神経芽腫の治療成績は年齢により大きく異なります。乳児には高い治療率が期待されますが、年長児では40%に満たない生存率です。





がん対策情報センターのホームページ内の「がん情報サービス・小児がんシリーズの冊子」には、こどもの悪性リンパ腫、横紋筋肉腫、肝腫瘍、骨肉腫、神経芽腫、腎腫瘍、脳腫瘍、胚細胞性腫瘍、白血病、ユーイング肉腫についての詳しい解説が掲載されています。ご参照下さい。

(http://ganjoho.ncc.go.jp/public/qa_links/brochure/child.html)

あ と が き

こどものがんについて求められる情報はさまざまです。心配なことがある場合には、まずは、かかりつけ小児科医によくご相談下さい。専門医療施設は、地域、こどものがんの種類、必要な治療などにより異なることがあります。成人のがんの診療を行っていても、こどものがんの診療経験があるとは限りません。専門医療施設への相談も、まずは、かかりつけ小児科医に紹介していただくことが効率的です。

編集責任 森 鉄也
熊谷昌明

発 行 財団法人 がん研究振興財団

成育医療センター 〒157-8535 東京都世田谷区大蔵 2-10-1
電話：03-3416-0181 ファックス：03-3416-2222
ホームページ：<http://www.ncchd.go.jp/>

全国のがん診療連携拠点病院と相談支援センター

●がん診療連携拠点病院

全国どこにお住まいでも質の高いがん医療が受けられるように、厚生労働大臣が指定した病院で、地域のがん診療の中心となる施設です。がん診療連携拠点病院は、専門的な知識と技能を持った医師、薬剤師、看護師、ソーシャルワーカー、放射線技師などがそろっていて、手術、抗がん剤治療、放射線治療の体制が一定の基準を満たしていること、複数の診療科による協力体制が整っていること、緩和ケアが提供できることなどが条件となります。さらに、セカンドオピニオンが提供できること、地域の病院や診療所との連携体制が整っていること、相談支援センターが設置され、相談に応じていること、がんの患者さんに関するデータ管理（院内がん登録）をおこなっていることなども条件になっています。

●相談支援センター

患者さんやご家族あるいは地域の方々からの、がんに関する相談を無料で受ける窓口です。がん診療連携拠点病院で診療を受けていない方からのご相談や、他のがん診療連携拠点病院についてのご相談もお受けしています。診断や治療の判断をすることはできませんが、どの科、どの病院を受診したらいいのかわからない、がんが疑われるといわれて不安でたまらない、診断や治療についてもっと詳しく知りたい、医療費はいくらかかるのか知りたいなど、がんに関するどんな相談にもおこたえします。ご相談は、相談支援センターで直接伺う方法と電話をかけていただく方法があります。予約が必要な施設もありますので、あらかじめ電話でご確認下さい。

がん対策情報センターが作成しているパンフレット「全国の拠点病院と相談窓口の一覧(2008)」を必要な方は
がん情報サービス ganjoho.jp へご連絡下さい。



【いぶき】はがん征圧のための基金です。皆さまのあたたかい気持ちが前へ進む原動力となります。
この基金は様々な研究やイベント、広報活動に役立てられています。

- 少額から寄付できます
- 当財団への寄付金については税制上の優遇措置が適用されます
- 所得税、法人税及び相続税の寄付金控除が受けられます

※税制上の点及び寄付金控除等のことについては、ご相談下さい。(TEL 03-3543-0332)

財団法人 **がん研究振興財団**

〒104-0045 東京都中央区築地5丁目1-1 国際研究交流会館内
TEL (03) 3543-0332 FAX (03) 3546-7826
E-mail info@fpcr.or.jp URL <http://www.fpcr.or.jp/>

本パンフレットから無断掲載・複製は固くお断りします。

H.22.2

より良い明日のために。宝くじは、大当たりのときめきとともに
収益金による街づくりを通じて皆さまの暮らしを応援しています。

宝くじ♪ ステキな未来を築く夢。



財団法人 **日本宝くじ協会**

当せんはしっかり調べて、しっかり換金。

<http://www.jla-takarakuji.or.jp>

(この遊具「ひごっこジャングル」(熊本市坪井川緑地公園内)は、
宝くじの普及宣伝事業として設置されたものです。)

●外国発行の宝くじを、日本国内において購入することは、法律で禁止されています。